

授業科目                      高次脳機能障害学・高次脳機能障害学演習

【担当教員名】 今村 徹	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	各1計2単位	時間数	各15計30時間

【<概要>】

ヒトの脳は一次的な運動・感覚機能に加えて、日常生活や社会生活をおくるために必要な記憶、注意、言語、計算、思考、判断、学習などの機能を担っている。これらを認知機能（または高次機能）と総称する。本科目では成人の認知機能障害の診断と評価を学ぶ。臨床現場では認知機能障害を診断・評価できる人材の不足は極めて深刻である。急性期、慢性期を問わず驚くほど多数の患者が、さまざまな認知機能障害を持っているにもかかわらず、障害の有無さえあやふやなまま、不十分な治療・看護・介護・療養環境に甘んじている。今後多くの臨床現場で言語聴覚士は、言語を含む認知機能障害全般のコンサルテーションを受ける専門職（神経心理士）としての役割を求められるであろう。本科目はそのような臨床現場のニーズに応えるための入門講座であると考えてほしい。

【<学習目標>】

①代表的な認知機能障害の症候学とその機序を理解する。②患者の認知機能障害を診察して症候群として把握できる。③把握した認知機能障害を適切な検査・テストで描出できる。④患者の認知機能障害に関する情報を、チームの他の職種が理解し利用するために行動することができる。

回数	授業計画又は学習の主題		学習方法・学習課題又は備考
		<p>以下の主題について計14回の授業および演習を行う予定である。具体的な日程は改めて通知する。</p> <p>診察から検査、そして解釈：認知機能障害の評価の流れ</p> <p>右半球症候群</p> <p>前頭葉症候群</p> <p>健忘症候群</p> <p>視覚認知に関係する症候群</p> <p>痴呆</p> <p>失語症候群：認知機能障害として</p>	<p>担当教員：今村 徹</p> <p>患者家族の協力を得られる場合には、各主題の演習として、患者の診察評価レポート作成と発表などを適宜行う。</p>

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	神経心理学入門	山鳥重	医学書院	1985年。6400円。ISBN：4-260-11707-6
	脳損傷の理解：神経心理学的アプローチ	鈴木匡子訳	MEDSI	1993年。5800円。ISBN：4-89592-077-1
参考書	脳からみた心	山鳥重	日本放送出版協会	1985年。970円。ISBN：4-14-001482-2
その他の資料	適宜配布する			

【評価方法】 未定（患者診察評価の演習がどの程度可能になるかで変わるため）	【履修上の留意点】 『高次脳機能障害学』『高次脳機能障害学演習』の2科目は一体のものとして運用し、個々の授業がどちらのものかはあえて区別しない。
--	---